

～サロネン指揮 フィルハーモニア管弦楽団 演奏会によせて～  
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 78

センセーショナル

『春の祭典』

展示期間 /

2020年1月15日(水)～3月15日(日)

(※休館日はwebでご確認ください / 最終日18:00終了)

企画・構成 /

関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2020年1月25日「エサ=ペッカ・サロネン指揮 フィルハーモニア管弦楽団」公演によせた展示をお届けします。20世紀の名曲といわれるイーゴリ・ストラヴィンスキー作曲『春の祭典』。今年15周年を迎える兵庫県立芸術文化センターの開館時(2005)には、オープニング・ガラ公演で復元上演され、故・薄井憲二氏(当時82歳)が、監修と共に「長老」役で出演されました。当コレクションともゆかりの深い作品です。

2月11日～第24回企画展【人形たちの饗宴～(鏡)を覗くように～】では、同じくストラヴィンスキー作曲『ペトルーシュカ』をご紹介します。是非、あわせてご覧ください。

### イーゴリ・ストラヴィンスキー (Igor Stravinsky)

1882年6月17日、サンクトペテルブルク近郊のオラニエンバウムに生まれ、1971年4月6日、ニューヨークで死去。20世紀最大の作曲家の一人。父フォードル(帝室オペラ専属バス歌手)の影響から、幼少から舞台上に親しみ、独学で音楽を学んだ。サンクトペテルブルク大学在学中からリムスキー=コルサコフに師事して作曲活動を開始、民族主義的な色彩にフランス印象派の影響を加え、独自の描写的な音楽を確立。セルгей・ディアギレフに認められ、バレエ・リュスの創立メンバーとなり、多くの楽曲を生み出した。

なかでも、『火の鳥』(1910)、『ペトルーシュカ』(1911)、『春の祭典』(1913)は、ストラヴィンスキー作曲三大バレエとして知られる。その他、『プルチネッタ』(1920)、『結婚』(1923)、『ミューズを導くアポロ』(1928)などを作曲。バレエ・リュス以後の『オルフェウス』(1948)や『アゴン』(1957)は、ジョージ・バランシンのために書いた新古典主義的作品。著書に『自伝』(1936)、『音楽の詩学』(1947)などがある。

### 『春の祭典 (Le Sacre du Printemps / The Rite of Spring)』

〈振付〉ワツラフ・ニジンスキー

〈音楽〉イーゴリ・ストラヴィンスキー

〈美術・衣装〉ニコライ・レーリヒ

〈初演〉1913年5月29日 パリ・シャンゼリゼ劇場

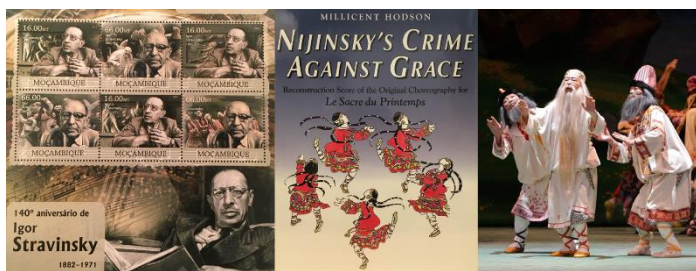
「大地礼賛」と「生贄の儀式」の2部構成からなる1幕のバレエ。凍てついた大地が割れるようにして訪れるロシアの春。その春を無事に迎えるために、選ばれた一人の乙女が生贄として太陽神に捧げられ、死に至るまで踊る。

複雑なリズムや不協和音、反バレエ的な動きに満ち、初演は怪我人も出る大騒動となった。観客の賛辞と罵倒で音楽が聴き取れぬ中、ダンサーは必死にカウントを数え、踊り続けたという。ニジンスキーが振り付けた3番目の作品であるが、彼が初めて振付家に徹して出演しなかったことも、スキャンダルを大きくした理由だったかもしれない。振付と同じく観客を驚かせたのは、管弦楽の多い独特の編成によるオーケストラが演奏したストラヴィンスキーの斬新な音楽であった。

初演以来、『春の祭典』の音楽性やテーマは、数多の振付家の感性や創作意欲を刺激し、時代を映し出す試金石であり続けている。主な版に、レオニード・マシーン(1920)、マリー・ヴィグマン(1957)、モーリス・ベジャール(1959)、ジョン・ノイマイヤー(1972)、ピナ・バウシュ(1975)、マッツ・エック(1982)、マーサ・グラハム(1984)、マリー・シュイナール(1993)、アンジュラン・プレルジョカージュ(2001)、日本では、H・アール・カオス(1995)、平山素子(2008)、山田うん(2013)、関典子(2013)、サイトウマコト(2016)などがある。

### 主な出展リスト

- ◆ST-BL-97 切手/イーゴリ・ストラヴィンスキー生誕140周年記念/モザンビーク/2012年
- ◆BK-0171-bio 書籍(署名入り)/イーゴリ・ストラヴィンスキー『自伝』/アメリカ/1936年
- ◆BK-0204 書籍(署名入り)/ミリセント・ホドソン『ニジンスキー～優雅さに抗って～』/アメリカ/1996年
- ◆PH-C-16-04・05 写真/ジョフリー・バレエ団/ニジンスキー版『春の祭典』復元上演/アメリカ/1980年代
- ◆参考 写真/薄井憲二/ワツラフ・ニジンスキーの墓前にて/フランス:モンマルトル/1970～1980年代



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用